

男性の家事・育児が社会を変える!?

平成29年度イクメン・カジダン養成出前講座 事業レポート

富山県では、男性の仕事と生活の調和の実現と家事・育児に参画しやすい職場環境づくりを推進するため、県内大学生を対象に「イクメン・カジダン養成出前講座」を実施しました。本レポートでは、出前講座の報告と、なぜ今男性の家事・育児参画なのか、その秘密に迫ります！

イクメンとは…

子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性

カジダンとは…

料理、掃除など、家事に積極的に取り組む男性

講師

小崎 恭弘先生

(NPO法人ファザーリング・ジャパン 顧問)

1968年生まれ、兵庫県出身。91年西宮市役所初の男性保育士として採用され、12年勤務。市役所退職後は、常磐大学を経て、大阪教育大学教育学部教員養成課程家政教育講座(保育学)准教授に就任。現在三児の父であり、それぞれに育児休暇を取得。



現代は、社会の変化や価値観の多様化により、これまでの生き方のモデルが参考にならない「モデル不在」の時代です。例えば、技術革新による大転換は、僕が子どもの頃にはなかった「ゲーム、コンピュータ、携帯電話」という仕事を生み出しました。一方、新しい仕事ができたと同時に「将来なくなる職業」もたくさんあります。男女の働き方も大きく変わり、結婚しない人や子どもを持たない人も増えて、今までの生き方のモデルでは、幸せになることは難しくなってきました。これらの大きな変化に対応するためには、自分だけの生き方を考える「ライフデザイン」と、それを実現するための「ライフプラン」が必要です。「自分の人生の主人公」になるため、今までと同じではない、新しい生き方、働き方を自分で決めていかないとはいけません。

なぜライフプランが必要か？

演題

ライフデザインを考えよう!

【日時】平成29年7月24日(月)
9:00~10:30

【場所】富山情報ビジネス専門学校
B館3階Bホール



「自分の人生設計図」をつくらう!

今までの幸せモデルが通用しないなか、「どうやって生きていくか」を考える「ライフプラン」は重要な視点です。社会が大きく変化することを念頭に、進路、結婚、妊娠、出産、子育てなどのライフイベントを考え、「自分の人生設計図」を作りましょう。

現代は、「なんでもあり」の自由度を求められる時代です。多様性のある自由な社会では責任も求められます。だからこそ、夢と希望を実現する生き方を思い描き、考える努力をしてください。自分自身がモデルになり、今までにない生き方や新しい生き方を見つけて、決めてほしいと思います。

自分の人生の主人公になるための4ステップ

- 1 今の社会の状況を認識する(立ち位置の確認)
- 2 自分自身の思いを明らかにする(自己スタンスの確認)
- 3 それらの思いのすり合わせや調整をする(意識の変化と枠組みへの疑問)
- 4 動く!(自らが実践する)

講演を聞いた感想、印象に残ったこと

- 自分のライフプランについて考えることができた……………男性・2年
- 漠然とした将来のイメージしか持っていなかったが、考え直してこう思った……………男性・2年
- モデルはいない。それは自分自身が決めること……………女性・2年

演題

子どもの成長と父親の育児

【日時】平成29年10月30日(月)
9:10~10:40

【場所】富山国際大学
呉羽キャンパスE701、702教室

イクメン・カジダンの登場

メディアで多く取り上げられているように、今、父親ブームです。子育てする父親は「イクメン」と言われ、父親が当たり前に育児をする文化が少しずつ育ってきました。僕が所属するNPO法人「ファザーリング・ジャパン」では、「よい父親」ではなく、「笑っている父親」を増やしたいと様々な活動をしています。子育ての知識をもっと持つて欲しいと思い、アプリ「パパ力検定」も作りました。

育児をする父親の登場は、歴史的な流れの中で当然の変化です。日本は今、「女性活躍推進」を掲げています。女性は家事、育児、介護、仕事と全部押しつけられ、苦し

い思いをしています。「女性活躍推進」を成功させるためには、「男性の家庭進出」をセットで進めなくてはなりません。「カジダン」という言葉もありますが、女性だけでなく、男性も家事、育児をして、夫婦で共に働き、共に子どもを育てることが大事です。企業も女性に働いてほしいなら、父親に家で頑張ってもらわないといけません。それを引っ張っていくのが「イクボス」です。誰もがこの社会で、子育てができる会社や文化を作るため、支援していかねばいけません。

父親に期待される役割とは

子育ての大変さは、簡単に言うとゴールの設定の難しさです。晩婚化、非婚化など社会が大きく変化する中で、子育て期間が伸び、学びが大切になっています。社会全体が幼稚化し、子育ての最終目標である子離れ・親離れに必要な経験を積むことがむずかしくなっているからです。だからこそ、子どもが小さい時期から「戦略育児」をすることが大事です。「子どもには何が大事か？何を大切に自分分は子どもを育てたいか」を意識してください。今までは全部母親に任せていたけれど、もう母親が一人で子育てするなんて無理です。夫婦が協力して、父親が意識を持って関わっていくことが大事です。

子どもを育てるには、「母性」「父性」の二つの力が必要です。子育ての基本は「母性」、



「包む優しさの力」です。この力がしっかりとあると子どもの自尊心、自己肯定感が育ちます。まずは子どものすべてを受け止めるのが前提です。しかし「母性」だけでは子どもは育ちません。道徳心や社会性を伝えていくのが「父性」です。子どもがより良く育つために大事なものは「母性」「父性」二つのバランスです。全部を一人で持つことはできません。だからチームで保育をしたり、教育をしたりするのは、家族のなかで言うと、父親と母親です。つまり、父親が育児をすると、家庭において父性と母性のバランスが取れるようになります。今の日本のしんどさは、母親が両方しないといけないこと。多くの人が子育てに関わることが、子どもをより豊かに育てる。それが今の保育や子育て支援の大きな流れです。

子育てを楽しもう！

子育ては期間限定。本当に今を楽しんでほしい。親ができることは、思いを持ち、心配をして、離れるタイミングを見つけることです。では、良い親の条件とは？「good enough mother (ほどよい母親)」。精神分析家のドナルド・ウィニコットの非常に有名な言葉です。子どもを育てる一つのポイントは「いい加減」。子どもが持つ育つ力や伸びていく力を親が信用し、見守っていくことで、子どもは成長していくのだと思います。

今までは父親は子どもの成長にあまり関わってきませんでしたが、これからはどんどん関わっていったらいい、それで子どもがより良く育っていく、そういう社会環境を作ってほしいなと思います。

講演を聞いた感想、印象に残ったこと

- 子育てを行ううえで、母親だけでなく、父親とのチームワークがとても重要であり、その中で、母性と父性の育児力のバランスも必要だと強く感じた 女性・2年
- 男性が子育てにただ関わるといだけでなく、具体的にどうすれば良いのか、心情の面、行動の面から理解することができた 男性・2年
- 男性と女性が補い合って、バランスの取れた子育てをすることが大切だと感じた 女性・2年
- 母親と父親がお互いに子育てをすることで、母親の負担が減るだけでなく、子どもにも良い影響を与えたとわかった
- 子どもに、母親とは違った方向から関わろうと思った 男性・2年

演題

ライフシフトから始める ライフデザイン!

【日時】平成29年11月16日(木)
13:00~14:30

【場所】富山大学 五福キャンパス
経済学部棟 2階201教室

人生100年時代

「ライフシフト」とは、生き方の転換です。「ライフシフト」が求められる理由は、まず、老後が長くなったことにあります。大正時代は、男性と女性の平均寿命は61才でした。現代は、定年退職が65才で、平均寿命は男性82才、女性88才ぐらいと伸びています。みなさんの頃には、「定年」という考え方がなくなっているかもしれません。ベストセラーの『ライフ・シフト』（リンダ・グラットン著）によると、2007年生まれの子ども達の約半数は100才まで生きるそうです。「人生100年」と思うと、これまでと同じ寿命



を前提とした「勉強・仕事・引退」のストーリーは、変更していく必要があると思います。また、社会構造も大きく変化しました。約40年前「圧倒的に多かった「専業主婦世帯」が、今は「共働き世帯」の半分です。若年層（30才未満）の可処分所得も、2009年に初めて女性が男性を上回りました。これは、介護、看護、保育分野など、これまで女性が主体となっていた仕事の給料が上昇したことと、今まで圧倒的優位だった男性の雇用状況が崩れたことが、大きな原因です。

現代の家族像と今後の日本

男女共同参画白書（内閣府）によると、「平均初婚年齢」は女性29才、男性30才。40才の初婚も増えました。「長子出産」は女性30才、男性32才。また、妊娠がわかって結婚する人の割合が増え、4組に1組がいわゆる「できちゃった婚」です。若い男女の9割が「いずれ結婚したい」と思っている一方、「生涯非婚率」は上昇し、女性の7人に1人、男性は4人に1人が結婚できなくなっています。少

子化も顕著です。第一次ベビーブーム（1947〜1949年）には年間270万人だった出生数は2016年には98万人です。日本全体では、2016年には約30万人の人口が減っています。今後の日本は、「晩婚化、未婚化、非婚化」がさらに進み、子どもが生まれにくい社会になります。「少子高齢化」や「人口減少」によって、労働力、経済力、国際競争力が低下していくことになりそうです。そこで必要なのは、社会の枠組みや個人の生き方を社会に合わせて変化させていくことです。

意識して、生き方を変える

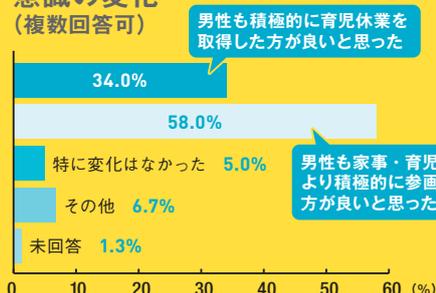
みなさんには、家族・子育て・働き方など、社会の大きな変化に合わせた生き方をしてほしい。人生は思い通りにいかないから面白い。だから頑張るのです。「誰とも違う、私ならではの」の生き方を描くのが、ライフデザイン。それを意識し、積極的に考え、努力して「生き方を変える」のが、ライフシフトではないかなと思います。

講演を聞いた感想、印象に残ったこと

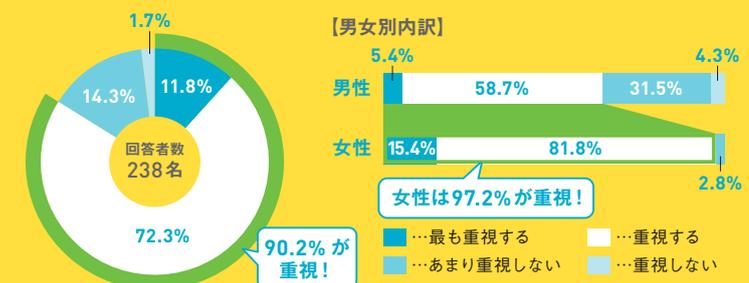
- 新しいモデルに日本の制度が対応しなければ、子どもは産めないと思った …… **男性・2年**
- 就職活動後の人生を考えるのに参考になった。女性と男性どちらも育休が取得しやすくなれば良いと思った …… **女性・3年**
- 幸せのモデルが30年前のモデルというのが印象深かった。昔のモデルと現状の差を認め切れていないことが問題になっているのかなと感じた …… **女性・2年**
- 30歳までに結婚して子供を産んで…という人生が理想という固定観念がもう時代遅れなのではないかと思った。時代とともに考え方を変えていくべきではないかと思った …… **女性・2年**
- これからの将来、どう生きていくかを真剣に考えることができ、意外に今までの自分が将来に漠然としたイメージしか持っていなかったと気づいた …… **男性・2年**

講演を聞いた学生への意識調査

意識の変化 (複数回答可)



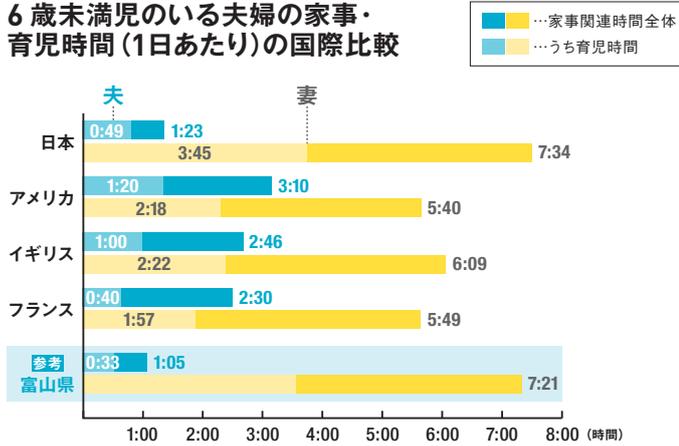
女性活躍や働き方改革に関する企業の取組みを重視するか



現状を知り立ち上がれ！ 男たち！

日本の夫は、家事と育児をしない！

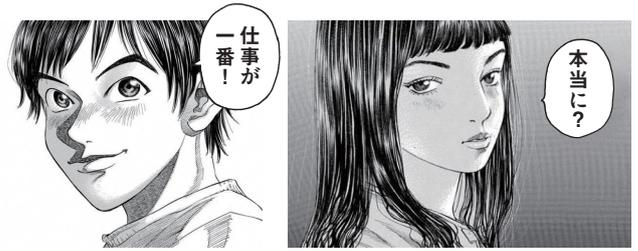
6歳未満児のいる夫婦の家事・育児時間(1日あたり)の国際比較



総務省「社会生活基本調査」(平成28年)、Bureau of Labor Statistics of the U.S.「American Time Use Survey」(2016)及びEurostat「How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men」(2004)より作成。
日本の値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日あたりの「家事」「介護・看護」「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体平均)。

共働き世帯でも、
約8割の男性が全く「家事」を行わず、
約7割の男性が全く「育児」を行っていない。

※平成28年社会生活基本調査(総務省)



このままだとどうなる?

女性には…

働き続けたくても仕事を辞めなきゃいけない…。

→ 夫が平日に全く家事・育児をしない場合、4割以上の女性が出産を機に離職^{*1}

育児が大変でキャリアアップできない…。

→ 41.5%の女性が、管理職になりたくない理由として、「仕事と家庭の両立が困難だから」と回答^{*2}

男性には…

モテない…。

→ 結婚する予定のある女性の96.0%が結婚相手の条件として「家事・育児の能力」を考慮・重視すると回答^{*3}

子どもは2人以上欲しかったけど、難しそう…。

→ 夫が休日に家事・育児を全くしない夫婦の9割で、第2子出生なし。^{*1}

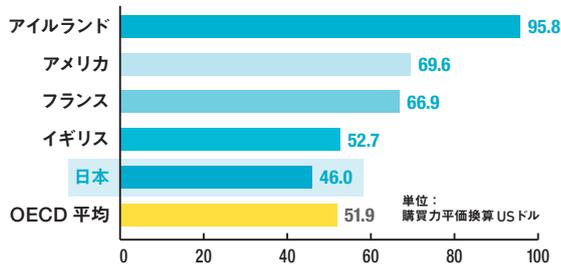
※1 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2016(内閣府) ※2 平成29年度女性活躍推進調査(富山県)
※3 第15回(2015)出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)

じゃあどうしたら良いの?



もっと効率的に働けるはず…?

OECD加盟諸国の時間当たり労働生産性(2016年/35カ国比較)



残業に対するイメージが背景にあるかも…?

1日当たりの労働時間が長い正社員ほど、残業している人に対して、「頑張っている人」「責任感が強い人」など、上司がポジティブな評価をしていると感じている。

※ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2016(内閣府)

自分でできることもあるよ!

- 配偶者との積極的なコミュニケーション
- 家事・育児スキルの向上

ガチ 企業も本気です!

平成29年7月25日、イクボス企業同盟とやま設立!



部下の仕事と家庭の両立を応援する企業等のトップ(イクボス)による、企業の枠を超えた同盟。イクボスや働き方に関する先進的な取組みを広めることを旨として、講演会や情報交換会等を実施

「イクボス企業同盟とやま」設立式



【発行】
富山県総合政策局
少子化対策・県民活躍課
TEL.076-444-3137

挿絵: ブラックジャックによるしく 佐藤秀峰